

1 作成のねらい

鳥取県西部地域は本県特産の白ねぎの主産地ですが、高齢化が進み生産者数が徐々に減少しており、産地の維持のためには生産者の確保や栽培面積の拡大が重要な課題となっています。

白ねぎの栽培工程を見ると、調製作業は全体作業時間のうち68%※を占めています。そのため、調製作業は経営規模に制約を与える要因の一つであり、経営面積の維持や拡大には調製作業の効率化を進めることも重要となってきます。

そこで、作業効率等が優れている生産者の事例を紹介することで、調製作業の見直しや、効率化に向けた検討資料としての活用を想定し作成しました。

※鳥取県農業経営指導の手引き（令和5年版・白ねぎ秋冬砂地）より

2 作成にあたって

(1) 本調査の対象者は①及び②の結果より、各地区1～2戸を選定した。

①令和元年度出荷調製作業実態調査（対象：JA鳥取西部白ネギ生産者・206名回答）

②鳥取県白ねぎ改良協会主催の白ねぎ多収穫共励会の受賞者

(2) 調査期間は令和3年度～令和5年度。ただし、次の項目については以下の時期とした。

①経営面積及び主要品種は、原則令和4年度とした。

②出荷日量、作業効率、出荷別規格割合は、令和5年11月～12月末日の出荷実績から7日～10日程度の実績を抽出して調査した。

(3) 作業能率はビデオ撮影により計測を行い、その他の項目は機材及び聞き取り調査をした。

目 次

1. 弓浜地区	A 農園（専作経営）	1
2. 弓浜地区	B 法人（専作経営）	3
3. 中央地区	C 法人（水稻、白ネギ複合経営）	5
4. 南部・伯耆地区	D 農園（水稻、白ネギ複合経営）	7
5. 南部・伯耆地区	E 農園（白ネギ、ブロッコリー複合経営）	9
6. 大山地区	F 農園（専作経営）	11
7. 大山地区	G 農園（専作経営）	13
8. 日野地区	H 農園（白ネギ、スイートコーン、ブロッコリー複合経営）	15